

OB会通信

2011年度 第1号
大阪府立大学陸上競技部

拝啓

初夏の候、少しずつ暑くなり始め、夏に向けて各パート、練習に活気が見え始めています。OB・OGの皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、この度は大阪インカレ、三大戦、関西インカレについてご報告させていただきます。

敬具



目次

1. 主将あいさつ

2. 主要試合結果報告

第59回大阪学生陸上競技対校選手権大会

第56回大阪三大学対校陸上競技大会

第88回関西学生陸上競技対校選手権大会

3. その他の試合の結果

4. 今後の目標と反省

1. 主将あいさつ

OB通信ではじめて接点をもつOB・OGの方もいらっしゃると思いますのでこの場をもってあいさつをさせていただきたいと思います。はじめまして。今年1年間主将をつとめさせていただくことになりました山中敬雄です。どうぞよろしくお願いします。

さて、今回の第1回OB通信は大阪インカレ、大阪三大学対校戦、関西インカレを中心にご報告させていただきます。

来たるシーズンに向けて選手、マネージャー一同は長く厳しい冬期練習や、香川県丸亀競技場で行った三大学合同合宿を乗り切ってきました。

シーズンに入って初の対校戦である大阪インカレでは、3回生の西野駿作が砲丸投で府大歴代1位タイ記録をだすなど、自己ベストや、自己ベストに迫る記録をだすことができた選手もいました。

また、大阪インカレの10日後に行われた大阪三大学対校戦では、昨年からの悲願であった男子総合優勝を果たすことができました。この結果は、出場した選手だけでなく、応援に徹した選手や、さまざまなサポートをしてくれたマネージャーが一丸となってこの対校戦に挑んだ結果だと思えます。11年ぶり5回目の男子総合優勝であり、このような喜ばしい場に主将として立ち会わせていただいたことに非常に感謝しています。

そして、4月28日、5月12日から15日の計5日間で関西インカレが行われました。今年のカンインカレはトラックの部が4日連続で行われ、今までになくハードなスケジュールでした。そんな中、100mと4×100mRでは府大新記録、また、追風参考ではありますが110mHと走幅跳で府大新記録に相当する記録がでました。そして、今大会では、優勝者を2名、入賞者を多数輩出することができました。総合得点は46.5点と昨年の点数には及びませんでした。しかし、昨年の順位である男子総合6位から今年は5位まで引き上げることができました。しかし、選手1人1人の力についてはついてきましたが、上位4校と比べると、円盤投や、やり投げ等に選手が出場していないように、選手の層の薄さを実感した大会でもありました。

文責 山中敬雄(3)

2. 主要試合結果報告

☆は自己ベスト、★は大学ベスト

第59回大阪学生陸上競技対校選手権大会

4月5日、6日 長居第二競技場

グランドコンディション

4月5日 晴れ 17.3℃

4月6日 晴れ 20.4℃

男子100m

伊吹 惇(4) 予 11" 58 (+2.4m) (5着)

保科 政幸(2) 予 11" 50☆ (+1.0m) (4着)

前山 龍平(2) DNS

伊吹(4)はスタートでつまずいてしまい出だしはあまり上手いかなかったようだが、後半に持ち直すことが出来、セカンドベストである11秒58という好記録につながった。保科(2)もスタートでつまずいてしまったようだが、最後まで失速することなくゴールすることができ跳躍選手でありながらこちらも11秒50という好記録であった。前山(2)は試合の一週間前に怪我をしてしまい棄権という形になってしまった。

文責 前山龍平(2)

男子200m

中田 洸樹 (4)	予	22" 78	(+2.9m)	(4着)
中野 智典 (3)	予	22" 70	(+0.3m)	(2着)
	準	22" 38	(+0.2m)	(3着)
保科 政幸 (2)	予	23" 00☆	(+0.9m)	(5着)

中野(3)はスタートから飛ばし2位といういい位置につけ、そのままゴールし予選突破。中田(4)は怪我をしていたこともあり、試合前に調子は良くないと言っていたが、4回生の底力か、予想以上の記録が出たようだった。保科(2)はスタートから積極的に飛ばしていき、後半は少しばてたものの自己ベストを出し、良い走りを見せた。今後の練習次第ではまだまだ記録が狙えるような走りだった。準決勝で中野は予選と同じようにスタートから飛ばしたものの、周りのレベルが高かったため、タイムは予選よりも良かったものの決勝に残ることはできなかった。

文責 大仲健司(2)

男子400m

松本 和也 (M1)		DNS		
中野 智典 (3)	予	49" 42☆		(1着)
	決	52" 04		(第7位)
弓場 大介 (3)	予	54" 58		(5着)

中野(3)は前半からリラックスした走りで好位置をキープ。終盤ほかの選手のスピードが落ちていく中、安定した走りで一気にトップとなった。そのまま見事に自己ベストを更新し、決勝進出を決めた。決勝では、高速レースの中、前半少し離されてしまった。持ち味の後半で巻き返しかと思われたが、予選やマイルの疲れがひびき失速してしまった。今後は、本数にも耐えうる走りに期待したい。弓場(3)は前半から加速するも、やや遅れ気味のレースとなってしまった。ラストの粘りはよかったようだ。シーズンは始まったばかりなので、この粘りを維持しつつトップスピードをあげて、次回は自己ベスト更新を狙いたい。

文責 高原裕樹(2)

男子800m

木村 和史 (M1) 予 2' 00" 36 (3着)

武田 大輝 (4) 予 1' 59" 41 (2着)

佐原 敏基 (2) 予 2' 07" 11☆ (6着)

木村 (M1)、武田 (4)、佐原 (2) とともに前半は先頭集団に加わる走りを見せた。そして勝負どころの後半であるが、木村はロングスパートをかけようとするも終盤に失速。次回にリベンジなるか。武田は少しペースが下がるも何とか粘りの走りを見せ1分台でまとめた。佐原は上位の選手に引き離されるもあくまで自分のペースを貫き、自己ベストの更新につながった。

文責 神農伸治 (2)

男子1500m

野々口 諒一 (M1) 決 4' 07" 09 (10位)

甲木 孝弘 (3) 決 4' 02" 09☆ (第5位)

赤坂 征典 (3) 決 4' 31" 06 (28位)

野々口 (M1) は、ラストに猛スパートをかける追い込み型の走りであったが、中盤にやや出遅れる形となってしまった。甲木 (3) は前半の2周を抑えめにして走り、3周目にスパートをかけラストは粘る形をとったが、終盤で少しペースダウンし優勝にはならなかった。本人もスパートのタイミングが悪かったと悔やんでいた。しかし、自己ベストは更新する大健闘を見せた。赤坂 (3) は、冷静な走りでペース維持の方向をとったが、自己ベストより多少遅いタイムとなってしまった。次回の挽回に期待。

文責 神農伸治 (2)

男子5000m

赤坂 征典 (3) 決 17' 09" 96 (12位)

甲木 孝弘 (3) 決 16' 07" 62 (14位)

北川 拓哉 (4) 決 16' 21" 15 (17位)

1組目に出場した赤坂 (3) は第2集団の先頭を位置取り、2000mまでは一定のペースで刻むものの、そこからペースが落ちてしまい粘る事が出来なかった。2組目に出場した北川 (4) と甲木 (3) は第2集団の後方につくがペースが速かったために、1000mを過ぎた辺りで2人共々離れてしまい苦しい走りとなってしまった。北川は前日の3000mSC、赤坂・甲木は約3時間前の1500mにそれぞれ出場しており、疲れが残ってしまったためか、各選手ともタイムが伸び悩んでしまった。次回の走りに期待したい。

文責 佐原敏基 (2)

男子10000m

山下 翔平 (3) 決 34' 54" 31 (17位)

逢坂 良樹 (M1) 決 35' 12" 22 (18位)

10000mには少々暑いコンディションの中、山下(3)、逢坂(M1)は前半、第二集団に位置し、良いリズムを刻んでいた。しかし、5000mを超えたあたりから集団がばらつき始め、ずるずるとペースがダウンしてしまった。一人旅になってからは、フォームの崩れが目立つようになり、両選手ともここ一番の苦しいところにおける粘りに課題の残るレースとなった。

文責 前田梨奈(2)

男子110mH

内賀嶋 陽史 (2) 予 14" 99 (+1.4m) (3着)

決勝進出が期待された内賀嶋(2)であったが、今回不調に終わった。本人は前日の4継を走った時から不調を感じていて、「体があまり動いていなかった。」と述べていた。インターバルが刻めていなく、ハードリング技術も不調なものであった。特に後半では体が浮いてしまった。これからのシーズンさらに調子が上がっていくことを期待したい。

文責 小川潤(2)

男子400mH

小川 潤 (2) 予 59" 09 (5着)

関西インカレに向け、逆足でハードルを超える練習をして前半の歩数を少なくすることに挑戦した今回の試合。初めての試みであったため、理想とは程遠いレース展開となってしまった。前半にスピードを抑え過ぎてしまったため、全体的に低速となった。関西インカレでは成果を発揮してほしい。

文責 内賀嶋陽史(2)

男子3000mSC

北川 拓哉 (4) 決 9' 56" 02 (第6位)

北川(4)は前半から飛ばしていきいい位置につけていたが、後半はばてたのか後続の選手に抜かされてしまい、結果としては入賞と良かったが、少し苦しい走りとなってしまった。4回生となり今後の練習が減ることが予想されるが、まだまだシーズン序盤なので今後の活躍に期待したい。

文責 大仲健司(2)

男子4×100mR

大阪府立大学（伊吹（4）－内賀嶋（2）－中野（3）－山中（3））予 DSQ

一走の伊吹（4）は好調なスタートを切り、二走の内賀嶋（2）とのバトンパスも詰まりながらではあるが、渡すことに成功した。しかし、内賀嶋と三走の中野（3）のバトンパスは練習不足だったこともありオーバーゾーンで失格となってしまう、決勝に進むことは出来なかった。

文責 前山龍平（2）

男子4×400mR

大阪府立大学（弓場（3）－中野（3）－武田（4）－松本（M1））

予 3' 24" 53 （4着）

決 3' 34" 40 （第6位）

1走の弓場（3）はタイムがよかったものの、最後まで追いつけず6位でつないだ。2走の中野（3）は前半からペースを上げ、5番手で3走の武田（4）へ。武田も前半からペースを上げて前との差を縮めていくが、ラスト100mで失速し、競り合いに勝てず4番手で4走の松本（M1）につなぐ。松本は前との差を縮め、4位で決勝進出を決めた。決勝では、他の種目に出ているメンバーに疲れが出ていたのであろうか、6位に終わった。今後のメンバーの体力向上による活躍に期待したい。

文責 矢野達哉（2）

男子走高跳

渡部 翔太（3） 1m90 （13位）

田中 英和（2） 2m00 （第2位）

渡部（3）は助走が安定せず、持ち味であるスピードを生かしきることができなかった。田中（2）は2位に入賞するも納得のいく跳躍はできなかったようだ。不調ながらも結果を残せることから、二人の地力の高さがうかがえる。今シーズンのさらなる躍進が期待できる。

文責 野本健太（2）

男子走幅跳

山中 敬雄 (3) 6 m 8 4 (± 0. 0 m) (第 4 位)

矢野 達哉 (2) 6 m 4 0 (− 1. 3 m) (1 3 位)

野本 健太 (2) 6 m 2 9 (− 0. 9 m) (1 6 位)

今シーズン関カレ標準 (6 m 9 0) をきると意気込んでいた山中 (3) は予選から 6 m 8 0 と良い滑り出しをみせる。途中足が合わなくなるも決勝もさらに記録を伸ばし関カレ標準まで後 6 c m と次の試合に期待できる結果となった。矢野 (2) 野本 (2) 両選手も自己ベストには及ばなかったが、向かい風の中シーズン序盤でまずまずの記録を残した。これから跳躍練習が多くなるので今後に期待が高まる。

文責 保科政幸 (2)

男子三段跳

山中 敬雄 (3) 1 4 m 1 5 (+ 0. 3 m) (1 0 位)

田中 英和 (2) 1 3 m 2 6 ☆ (− 1. 3 m) (1 3 位)

矢野 達哉 (2) 1 3 m 6 8 (− 0. 7 m) (1 5 位)

山中 (3) はステップ時に足が流れてしまっていたため、反発を得ることができず記録が伸び悩んだ。田中 (2) は向かい風の中、持ち前のバネを生かした跳躍で自己ベストを記録した。矢野 (2) はシーズン初めということもあり、助走にスピードがなかった。そのため本来の力とは程遠い結果となり、悔しがっていた。

文責 野本健太 (2)

男子砲丸投

西野 駿作 (3) 1 3 m 8 8 ☆ (第 2 位)

1 投目から自身のセカンドベストタイである 1 3 m 5 0 を記録した西野 (3) は 3 投目で自己ベストとなる 1 3 m 8 3 を投げ、勢いそのままに 4 投目で府大タイ記録となる 1 3 m 8 8 を記録し 2 位という結果となった。これは冬季練習の成果が出たと思われる。本人は三大戦に照準を合わせており、記録の更新が期待される。

文責 奥野照基 (2)

女子100m

石井 あかり (2) 予 14" 80☆(+0.3m) (7着)

草西 佑美 (2) 予 15" 46☆(+0.8m) (8着)

石井(2)は今回初の100m出場であった。スタートの改善を目標としていた。加速区間ですぐに上体が上がってしまいスピードにのることができないのが一つの課題である、と本人は語っていた。石井は後半型と思われるので、スタートを改善することも大切だが、長所も伸ばして欲しいと思う。

草西(2)は3月の学連競技会の自己ベスト15" 76(+0.0m)から大きく自己ベストを更新した。今回、調子はよくも悪くもなかったと語っていたので、実力が確実に上がってきていると思われる。草西は後半の走りにまだまだ課題が残るので、石井と共に切磋琢磨してがんばって欲しいと思う。

今後、短距離女子部員が少ない中ではあるが、ほかの男子の選手と共に臆することなく練習し、さらなる躍進を期待する。

文責 小川潤 (2)

女子200m

石井 あかり (2) 予 30" 55☆(+3.7m) (6着)

草西 佑美 (2) 予 33" 19☆(+1.4m) (7着)

草西(2)は初めての200mで緊張してしまっただが、最後までしっかりと走りきることができた。石井(2)は追い風参考記録ながらも自己ベストを出し、冬の練習の成果が発揮された。

文責 田中英和 (2)

女子800m

関岡 由希子 (3) 予 2' 29" 92 (5着)

序盤から順調なスタートをきり、調子の良さが伺えた関岡(3)。さらに、そこから徐々にペースをあげていき、中盤4着と一定のペースでの走りを見せてくれた。しかし、後半4着争いに惜しくも追いつけず、5着でゴールに入った。また、記録はベストとはいかなかったようだが、ベストに近い記録はでたようだ。今回の試合を糧にし、次回のベスト更新を期待したい。

文責 石井あかり (2)

女子1500m

小池 徳子 (3) 決 6' 04" 17 (24位)

関岡 由希子 (3) 決 5' 19" 82 (17位)

前田 梨奈 (2) 決 5' 11" 84 (15位)

まず1組目に出場したのは小池(3)と前田(2)の2人。前田は集団の真ん中を位置取り、3周目に差し掛かって集団がばらけても上位をキープし、粘りのある走りを見せた。小池は序盤から集団から離れる苦しいレース展開であった。体調不良や故障が相次ぐ中でこの大会であったので、今後の走りに期待したい。2組目に出場の関岡(3)は序盤からハイペースの集団にくらいつく。だが3周目から一気にペースが落ちてしまった。本人いわくハイレベルな選手と走り良い経験が出来たとの事なので、今後に期待がかかる。

文責 佐原敏基 (2)

女子5000m

小池 徳子 (3) 決 21' 45" 90 (21位)

西村 実希子 (3) 決 18' 56" 12 (14位)

前田 梨奈 (2) 決 19' 30" 48 (18位)

女子5000mには、小池(3)、西村(3)、前田(2)の3人が出場した。3人ともそれぞれのペースで走りきった。西村と前田は、序盤のペースを保ち安定した走りを見せた。小池は体調不良のため十分なコンディションではない中のシーズンインであったが、着実に自分のペースで走りきった。三人のこれからの更なる活躍に期待したい。

文責 草西佑美 (2)

《応援・競技に参加して頂いたOB・OGの皆様》

逢坂さん、木村さん、谷口さん、野々口さん

お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。

第56回大阪三大学対校陸上競技大会

4月16日 金岡公園陸上競技場

グランドコンディション 晴れ

男子100m

大会記録 10" 95

(+0.5m)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 内賀嶋 陽史 (府大) 11" 04☆ | 2. 寺嶋 高志 (市大) 11" 11 |
| 3. 中野 智典 (府大) 11" 13☆ | 4. 今井 俊彰 (市大) 11" 16 |
| 5. 田宮 直樹 (阪大) 11" 23 | 6. 長野 良哉 (阪大) 11" 27 |

府大 10点 阪大 3点 市大 8点

今回の男子100mは、ハイレベルかつ、0.2秒の中でひしめく大混戦となった。互いに抜きつ抜かれつのシーソーゲーム状態であったが、1番手でゴールに飛び込んだのは内賀嶋(2)だった。中野(3)もスタートこそ出遅れたものの、加速でなんとかカバーし、3番手でゴールした。内賀嶋にとっては、大きな自己ベスト更新で、10秒台も現実味を帯びてきた。

文責 神農伸治(2)

男子400m

大会記録 48" 39

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 寺嶋 高志 (市大) 49" 20 | 2. 亀坂 晃司 (市大) 49" 35 |
| 3. 中野 智典 (府大) 50" 09 | 4. 高橋 勇理 (阪大) 50" 49 |
| 5. 松本 和也 (府大) 51" 20 | 6. 小間 洋和 (阪大) 51" 34 |

府大 6点 阪大 4点 市大 11点

シーズン序盤のこの三大戦で、中野(3)は調子もよく期待されていたがレース序盤から市大の走力のある選手が出てきてレベルの高い戦いとなった。序盤で差をつけられてからは、後半粘りを見せるものの市大の選手二人に置いていかれる形となった。一方、怪我のため不調であった松本(M1)は、不安が残るものの最後まで粘りを見せ、5位につけた。これからシーズンインするので、中野・松本両選手ともにさらなる躍進が期待される。

文責 保科政幸(2)

男子1500m

大会記録 4' 02" 76

1. 甲木 孝弘 (府大) 4' 04" 82
2. 松井 健太 (阪大) 4' 05" 60
3. 檜本 篤実 (市大) 4' 06" 00
4. 野々口 諒一 (府大) 4' 10" 33
5. 山根 裕樹 (阪大) 4' 11" 97
6. 後藤 貴久 (市大) 4' 18" 44

府大 9点 阪大 7点 市大 5点

野々口 (M1) が先頭に立ち、レースの序盤を引っ張った。中盤まで野々口がレースを展開していたが、終盤になると回りのスパートに振り切られる。そのスパート合戦で競り勝ったのが、集団の真ん中でレースの様子を窺っていた甲木 (3) であった。スパートに遅れた野々口も、最後の直線で粘りの走りを見せ、4位となり、府大が勝ち越した。

文責 内賀嶋陽史 (2)

男子5000m

大会記録 14' 55" 06

1. 酒井 健 (阪大) 15' 15" 00
2. 近田 昌志 (市大) 15' 19" 13
3. 北川 拓哉 (府大) 15' 42" 19
4. 甲木 孝弘 (府大) 15' 42" 43
5. 檜本 篤実 (市大) 15' 43" 53
6. 西村 太志 (阪大) 15' 46" 86

府大 7点 阪大 7点 市大 7点

序盤、北川 (4) は集団の真ん中に位置取り、甲木 (3) は集団から1人離れてしまう。2000m過ぎから集団が分かれ、北川は第2集団で淡々と走る一方、甲木はその差を徐々に縮めていき、遂に4000m過ぎで追いついた。そして他大学の選手もスパートをかけるなか、なんとか逃げ切り素晴らしい逆転劇を見せた。昨年、大会記録を打ち破った阪大の酒井や市大の近田がいるなかで、府大は総合力で7点を取る事が出来た。

文責 佐原敏基 (2)

男子4×200mR

大会記録 1' 28" 53

1. 大阪市立大学（寺嶋—今井—木野—亀坂） 1' 28" 32 **NGR**
2. 大阪大学（長野—大家—山田—山本） 1' 28" 79
3. 大阪府立大学
（中野（3）—内賀嶋（2）—中田（4）—山中（3）） 1' 30" 30

府大 0点 市大 6点 阪大 3点

男子のレースはほぼ阪大、市大を追う形となった。途中内賀嶋（2）→中田（4）あたりで2位の阪大に食らいつく力走をみせたが、結果は3位であった。今後、リレーメンバーの層を厚くしていき、さらなる記録向上をめざしていきたい。

文責 小川潤（2）

男子走高跳

大会記録 2m16

1. 滝川 憲（阪大） 2m00
2. 田中 英和（府大） 2m00
3. 渡部 翔太（府大） 1m90
4. 吉永 光宏（阪大） 1m85
5. 竹澤 直樹（市大） 1m70
6. 森 拓士（市大） 1m60

府大 9点 阪大 9点 市大 3点

渡部（3）は助走時に腰の位置の上下動が激しく、安定こそしなかったものの高い身体能力でカバーすることで記録を伸ばし、3位につけた。田中（2）は気温の低い悪条件の中、2mも越えて見せたが改善点が多くあるらしく、満足のいかない様子だった。順位は試技の本数で惜しくも2位となった。関西インカレでは今大会の雪辱を晴らしてもらいたい。

文責 野本健太（2）

男子走幅跳

大会記録 7 m 1 8

- | | | | | |
|---------------|---------|-----|----------------|---------|
| 1. 今井 俊彰 (市大) | 7 m 4 4 | NGR | 2. 長末 慎之介 (市大) | 7 m 1 4 |
| 3. 山中 敬雄 (府大) | 6 m 7 8 | | 4. 西田 拓展 (阪大) | 6 m 5 7 |
| 5. 矢野 達哉 (府大) | 6 m 5 4 | | 6. 中野 翔 (阪大) | 6 m 2 9 |

府大 6点 阪大 4点 市大 11点

矢野(2)は一本目、二本目ともにフェールになってしまい、三本目も足が合わなかったようだが、四本目にはきちんと腰をのせて跳ぶことが出来、6 m 5 4 という好記録を出すことが出来た。山中(3)はすべての跳躍で体の軸がぶれてしまい理想の跳躍が出来なかったにもかかわらずこちらも6 m 7 8 という好記録を出すことができた。今後の期待にもつながる跳躍だったといえる。

文責 前山龍平(2)

男子三段跳

大会記録 1 5 m 3 2

- | | | | |
|---------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 今井 俊彰 (市大) | 1 5 m 2 7 | 2. 山中 敬雄 (府大) | 1 4 m 7 1 ☆ |
| 3. 矢野 達哉 (府大) | 1 4 m 2 7 ☆ | 4. 中野 翔 (阪大) | 1 4 m 1 8 |
| 5. 村井 伸行 (阪大) | 1 3 m 5 1 | 6. 吉岡 達彦 (市大) | NM |

府大 9点 阪大 5点 市大 7点

山中(3)は幅跳びで、緊張がほぐれ、きれいなフォームで跳躍することができ、見事自己ベストを跳ぶことができた。矢野(2)も2 cmではあるが自己ベストをだし、久々の1 4 m台を跳ぶことができて、手ごたえを感じていた。両者とも関西インカレに出場するので活躍を期待したい。

文責 田中英和(2)

男子砲丸投

大会記録 14m10

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 西野 駿作 (府大) 13m74 | 2. 福井 康大 (阪大) 11m69 |
| 2. 鶴崎 晋也 (阪大) 11m31 | 4. 芦田 尚侑実 (市大) 10m21 |
| 5. 奥野 照基 (府大) 9m68 | 6. 田中 貴大 (市大) 8m78 |

府大 8点 阪大 9点 市大 4点

奥野(2)は1投目から調子が悪く、自己ベストにも及ばず5位に終わった。西野(3)はチャンピオンシップの標準記録である14m20を狙ってこの三大戦に調子を合わせていたが、あまり記録は伸びずに13m74という記録に終わった。だがそれでも1位を獲ってくる場所はさすがといえる。次の関西インカレでの標準記録突破を期待したい。

文責 奥野照基(2)

男子円盤投げ

大会記録 40m02

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 鶴崎 晋也 (阪大) 31m19 | 2. 福井 康大 (阪大) 30m25 |
| 3. 芦田 尚侑実 (市大) 29m14 | 4. 二反田 松平 (府大) 27m67 |
| 5. 田中 英和 (府大) 23m68 | 6. 能重 匠 (市大) 20m82 |

府大 3点 阪大 11点 市大 5点

二反田(M2)は最近まで就職活動をしており練習不足はいなめなかったが、採用が決まったということもあり、気持ちで投げることができたようだった。田中(2)は専門外の種目であったが、記録を残し、二反田とともに対抗戦のポイントを取り、府大の優勝に貢献した。

文責 大仲健司(2)

男子やり投げ

大会記録 62m84

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 中澤 密 (阪大) 60m31 | 2. 福井 康大 (阪大) 46m41 |
| 3. 今井 敏彰 (市大) 43m64 | 4. 二反田 松平 (府大) 43m01 |
| 5. 田中 英和 (府大) 36m61 | 6. 浅尾 朋幸 (市大) 29m87 |

府大 5点 阪大 9点 市大 5点

二反田(M2)は就職活動で試合前の期間にほとんど練習できなかつたにも関わらず、40mを越える投てきができ満足していた。田中(2)は練習の時にできていた動きが全くできず、悔いの残る結果となった。

文責 田中英和(2)

女子100m

(+0.5m)

1. 牛山 綾 (阪大) 12" 99 **NGR**
2. 絹岡 なずな (阪大) 13" 26
3. 森山 美知子 (市大) 13" 27
4. 森本 早紀 (市大) 13" 43
5. 石井 あかり (府大) 15" 02
6. 草西 佑美 (府大) 15" 36 ☆

府大 0点 阪大 7点 市大 3点

女子100mは、石井(2)、草西(2)ともに上位4人に差をあげられる形となってしまったが、石井もスピードを維持しつつ丁寧に走った。草西の場合は、終盤でスピードが落ちてしまい、スタミナに課題を残す形となったが、自己ベストは更新。まだまだ成長の可能性は高い。

文責 神農伸治(2)

女子800m

1. 平川 菜央 (阪大) 2' 28" 54
2. 関岡 由希子 (府大) 2' 30" 82
3. 小川 瑠美 (府大) 2' 32" 50
4. 澄川 美穂子 (阪大) 2' 36" 07
5. 伊藤 愛慧 (市大) 2' 47" 04
6. 武田 ゆり (市大) 2' 51" 45

府大 5点 阪大 5点 市大 0点

女子800mには、小川(4)、関岡(3)の二人が出場した。小川は就活で練習にほとんど来ていないとは思えないほどの快調な走り、関岡もゴール直後に倒れこんでしまうほどの勢いでの好調な走りであった。二人とも得点に大きく貢献してくれた。

文責 草西佑美(2)



800mを走る小川（4）左、と関岡（3）右

女子4×200mR

1. 大阪市立大学（森山—森本—石貫—石飛）1' 52" 13
2. 大阪大学（絹岡—牛山—宮崎—川守田）1' 55" 68
3. 大阪府立大学
（石井（2）—関岡（3）—前田（2）—草西（2））2' 06" 72

府大 0点 市大 4点 阪大 2点

女子4×200mRは、メンバー不足のため中長距離パートから関岡（3）と前田（2）が出場したが、終始苦しいレース展開となり、市大、阪大と大きく差をつけられた結果となった。今後、女子短距離部員数を増やしていき、さらなる躍進を期待したい。

文責 小川潤（2）

女子砲丸投

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 國信 奈苗 (市大) 8 m 9 3 | 2. 川守田 優 (阪大) 7 m 7 3 |
| 3. 小西 由夏 (阪大) 7 m 6 4 | 4. 森山 美知子 (市大) 7 m 4 4 |
| 5. 前田 梨奈 (府大) 5 m 6 8 | 6. 小池 徳子 (府大) 5 m 4 0 |

府大 0点 阪大 5点 市大 5点

小池(3)は長距離選手にもかかわらず奮闘したが、他大学の選手が強く6位に終わった。前田(2)も長距離選手で3000mの後であったが、頑張り5位という結果だった。今回はあまり砲丸投の練習をする時間がなく練習次第でまだ記録の更新が期待できるので、二人とも今後の対抗戦での投擲に期待したい。

文責 奥野照基(2)

総合成績

男子対校

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
トラック合計	41	24	37
トラック順位	1位	3位	2位
フィールド合計	33	49	34
フィールド順位	3位	1位	2位
総合得点	74	73	71
総合順位	1位	2位	3位

女子対校

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
総合得点	10	27	19
総合順位	3位	1位	2位

オープンの部

1000m	伊吹 惇 (4)	1 1" 7 9 (+0. 5m)
	小川 潤 (2)	1 1" 7 9 (-0. 8m)
	奥野 照基 (2)	1 2" 0 8 (-0. 8m)
	大仲 健司 (2)	1 2" 1 8 (-0. 8m)
	高原 裕樹 (2)	1 1" 9 6 (+0. 3m)
	辻本 隆宏 (府大AC)	1 3" 7 1 (-0. 8m)
2000m	二反田 松平 (M1)	2 4" 6 6 (+2. 2m)
	伊吹 惇 (4)	2 3" 7 6 (+2. 9m)
	渡部 翔太 (3)	2 3" 1 1 (+2. 2m)
	岡本 真 (川崎重工)	2 3" 6 9 (+2. 2m)
4000m	弓場 大介 (3)	5 3" 4 2
	小川 潤 (2)	5 5" 5 5
	高原 裕樹 (2)	5 5" 5 7
	辻本 隆宏 (府大AC)	6 4" 2 5
8000m	木村 和史 (M1)	2' 0 6" 5 5
	野々口 諒一 (M1)	2' 0 1" 2 7
	武田 大輝 (4)	2' 0 0" 3 6
	小川 潤 (2)	2' 2 3" 9 9
	佐原 敏基 (2)	2' 0 8" 2 1
	神農 伸治 (2)	2' 2 1" 6 5
	村岡 隆幸 (府大OB)	2' 2 0" 8 9
15000m	逢坂 良樹 (M1)	4' 2 5" 2 4
	佐原 敏基 (2)	4' 2 7" 7 3
	藤原 英司 (府大OB)	4' 3 5" 8 3
	村岡 隆幸 (府大OB)	4' 5 0" 0 1
30000m	小池 徳子 (3)	1 2' 2 2" 6 1

5000m	逢坂 良樹 (M1)	16' 40" 18
	山下 翔平 (3)	16' 30" 93
	藤原 英司 (府大OB)	16' 40" 51
	木下 健次 (府大AC)	17' 09" 63

4×200mR	Two-dimensions	
	(岡本さん(川崎重工)―伊吹(4)―木村(M1)―武田(4))	
	1' 37" 80	
	チーム二反田	
	(弓場(3)―奥野(2)―田中(2)―二反田(M2))	
	1' 45" 80	

走幅跳	保科 政幸 (2)	6m36 (+0.3m)
	野本 健太 (2)	6m14 (-0.2m)

砲丸投	二反田 松平 (M2)	9m41
-----	-------------	------

円盤投	南田 太 (府大AC)	26m27
-----	-------------	-------

やり投	渡部 翔太 (3)	34m69
-----	-----------	-------

《応援・競技に参加して頂いたOB・OGの皆様》

山口さん、村岡さん、福西さん、南田さん、辻本さん、木下さん、岡本さん、千住さん、黒川さん、二反田さん、松本さん、逢坂さん、大林さん、木村さん、谷口さん、野々口さん、藤井さん、藤原さん、山本(裕)さん、山本(僚)さん
お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

第 88 回関西学生陸上競技対校選手権大会

4月28日 長居周回

5月12日、13日、14日、15日 長居第二競技場

● グランドコンディション

4月28日 晴れ 19℃

5月12日 曇り 25℃

5月13日 晴れ 24℃

5月14日 晴れ 24℃

5月15日 晴れ 26℃

男子100m

伊吹 惇(4) 予 11" 48☆ (+0.7m) (7着)

内賀嶋 陽史(2) 予 11" 02☆ (+1.4m) (3着)

準 11" 28 (-1.9m) (4着)

伊吹(4)の組ではスタートがやり直しとなる、緊張感のあるレースとなった。スタートが遅れてしまい、加速もうまくいかなかった。しかし、後半は自身も驚くほどの伸びをみせて、自己ベストを更新することができた。内賀嶋(2)はスタート、加速ともに納得のいく出来で、中盤以降は10秒台の選手2人と競る形となった。目標の10秒台には惜しくも届かなかったが、府大新記録での予選通過となった。準決勝では、予選と同様に、スタートと加速はうまくいったが、中間疾走から強烈な向かい風を受け、苦しいレースとなった。記録は予選より大きく下回ったが、悔いのない会心の走りだったようだ。

文責 高原裕樹(2)

男子200m

伊吹 惇(4) 予 24" 74 (-2.4m) (5着)
中野 智典(3) 予 22" 81 (-3.3m) (2着)
 準 22" 37 (-2.6m) (3着)
 決 22" 36 (-1.1m) (第5位) 4点

予選1組に出場した伊吹(4)は、向かい風の強い中のスタートとなった。前日までに、100m、4×100m、4×400mに出場しており、そのせいもあってか思うようにタイムは伸びなかった。中野(3)も向かい風の強い中のスタートとなったが、予選を2位で通過した。準決勝では、向かい風がとても強い中、後半積極的に攻め、見事決勝進出を果たした。決勝でも粘りのある走りを見せ5位でのゴールとなったが、本人には悔いの残る結果となったようだ。今後の二人の更なる活躍に期待したい。

文責 草西佑美(2)

男子400m

松本 和也(M1) 予 51" 49 (4着)
 準 50" 70 (5着)

予選ではスタートから低い姿勢のスタートで前半からかなり飛ばした。300mあたりはトップで通過したが、ラストで抜かれ4着となった。タイムはベスト記録の49秒台よりは少し遠い記録となったが、準決勝へは+αで拾われる形となった。準決勝では予選と同じく前半型のレース展開を見せ、後半も粘りを見せラスト100で3位の選手に食らいついたが、惜しくも5着となった。

文責 小川潤(2)

男子800m

武田 大輝(4) 予 2' 01" 81 (3着)
 準 2' 01" 27 (7着)

予選で武田(4)は1周目、集団の真ん中に位置取る。2周目に差し掛かるところで積極的に先頭に立った。ラスト200mで抜かれるも粘りの走りを見せて、見事準決勝にコマを進めた。準決勝、武田は集団の後方につけ、1周目を56秒というハイペースで通過する。その疲れからか最後尾となり、ラスト200mから猛追するものの残念ながら決勝進出とはならなかった。

文責 佐原敏基(2)

男子1500m

野々口 諒一 (M1) 予 4' 06" 82 (7着)

甲木 孝弘 (3) 予 4' 03" 81 (4着)

序盤から順調なペースでスタートをきった野々口(M1)。その後も順位を落とすことなく、ほぼ一定のペースでの走りを見せ、最後の一周で一人追い越し、7位でゴールに入った。一方、甲木(3)は、序盤は抑え気味の走り出しであった。しかし、2周目あたりから徐々にスピードを上げていき、最後の300mで先頭集団3人との順位争いが繰り広げられ、結果4位でのゴールとなった。どちらの選手も目が離せないレース展開を見せ、今後の試合に期待が高まる試合であった。

文責 石井あかり (2)

男子5000m

甲木 孝弘 (3) 15' 57" 74 (26位)

前半は、先頭集団の中心で3' 10前後で刻んでいた。2000m手前あたりで先頭がスピードをあげ、集団がばらついたが7番をキープ。しかし、3000~4000mの1000mにおいて、ラップが10秒ほど落ちてしまった。ここできつそうな表情を見せるが、なんとか粘り切り、ラスト2周で6番に上がる。最後は、前日の1500mの疲れをみせないようなスパートをみせつけた。駅伝パート長として、今後の活躍に期待がかかる。

文責 前田梨奈 (2)

男子10000m

北川 拓哉 (4) 決 34' 11" 26 (32位)

甲木 孝弘 (3) 決 33' 14" 66 (23位)

試合4日目ということもあり疲労がたまっていたか、北川(4)は序盤はいいペースで走っていたが中盤あたりから徐々にペースが落ちてしまった。甲木(3)もそれまでの試合の影響か、ペースは刻めていたものの、納得のいくレースとはいえないようだった。

文責 大仲健司 (2)

男子ハーフマラソン

山下 翔平 (3) 1° 18' 24" (35位)

涼しい気候に恵まれ、後方集団に位置する形でレースは始まった。しかし、2周目から一人旅となってしまい、前の選手も見えなくなってしまった。風も強かったため、苦しげな表情の走りが続いた。後半になってくるにつれ、落ち着いた走りにはなったが、先頭とは一周遅れとなってしまった。記録的には、一周10' 40前後と安定しており、大幅なペースダウンは見られなかった。

文責 前田梨奈 (2)

男子110mH

内賀嶋 陽史 (2) 予 15" 27 (-4.1m) (2着)

決 14" 53☆ (+2.2m) (第1位) 8点

小川 潤 (2) 予 19" 35☆ (-3.2m) (8着)

内賀嶋 (2) は目標が優勝ということもあり、予選では決勝を意識した最終確認を行った。前半は、スタートとハードリングともに良かったようだ。後半は軽く流して、決勝進出を決めた。決勝では、納得のいくスタートで、前半からトップにたった。終盤に向かい風を感じたようで若干つまってしまったが、そのままトップを維持して、追い風参考ではあるが見事府大新記録に相当する高記録での優勝となった。小川 (2) は110mHが専門種目ではないため、挑戦という形で出場した。スタートから1台目のハードルまでが不安だったようだが、無事に成功した。序盤から他の選手と大きく離されてしまったが、自分のペースを守り完走することができた。今回の経験を専門種目に生かせるように頑張りたい。

文責 高原裕樹 (2)



110mHを疾走する内賀嶋（2）左から3人目

男子400mH

小川 潤（2） 予 58"92（6着）

筋トレやハードリングの練習を入念におこなっていたので、関カレという大舞台で自己ベスト更新を、と期待されていた小川（2）であったが、緊張してしまったのか、中盤で歩数が合わないなど凡ミスが目立ち、結果、自己ベストからは遠いタイムとなってしまった。しかし、力は着実に伸びてきているのが見受けられた。

文責 神農伸治（2）

男子3000mSC

北川 拓哉 (4) 9' 45" 66 (11位)

山下 翔平 (3) 10' 18" 70☆ (27位)

まず1組目に登場した山下(3)は集団から少し離れたところに位置取り、そこから徐々に選手を拾っていく。ラスト1000mになると顔から疲れが見えるようになってきたが、最後に粘りのスパートを見せ、自己ベストを5秒ほど更新する事が出来た。2組目の北川(4)は最初、集団の真ん中辺りで淡々と走る。レース中盤になると集団から少し離されてしまい、苦しい展開となる。ラスト追い上げるも、自身の目標としていた入賞とはならず、悔いの残る試合となってしまった。

文責 佐原敏基 (2)

男子4×100mR

大阪府立大学 (伊吹 (4) - 内賀嶋 (2) - 中野 (3) - 山中 (3))

予 42" 25☆ (3着) 府大新!!

決 42" 55 (第7位) 2点

予選は1走の伊吹(4)が他の選手に引けをとらない見事な走りをし、以降の内賀嶋(2)、中野(3)、山中(3)もバトンパスはいまいちだったものの、すばらしい走りを見事府大新で決勝進出を果たした。決勝ではそれぞれが全力を尽くしたが疲労がたまっており思うような走りが出来なかったようだが、42秒55という好記録で7位入賞を果たした。

文責 前山龍平 (2)

男子4×400mR

大阪府立大学（弓場（3）－中野（3）－前山（2）－松本（M1））

予 3' 21" 24（3着）

決 3' 25" 84（第8位）1点

1走の弓場（3）は前半から突っ込み気味にスタートし、そのままのペースを維持して2走の中野（3）へ。中野は前半から他大学を次々と追い抜いていき、後半は持ち前の体力とスピードで順位を3位に上げる。3走の前山（2）は怪我が治りきっていないためか、前半に前の選手に置いていかれる。しかし、後半に粘りのある走りを見せて4走の松本（M1）へとバトンをつなぐ。松本は最初から突っ込んでいき、後続を突き放して、後半は粘りを見せて3位で決勝進出を決める。決勝では、予選と同じような力強い走りを見せるが、予選のときよりタイムが思わしくなく8位に終わってしまった。

文責 矢野達哉（2）

男子走高跳

渡部 翔太（3） 1m95（第5位）3.5点

田中 英和（2） 2m00（第2位）7点

トラック種目の10000mと競技時間が被ってしまい、集中を保ち辛かった今回の男子走高跳。その中でも渡部（3）は自己記録タイを成功させ、去年（8位）よりも順位を上げた。一方、日本学生個人選手権の標準記録（2m07）を狙っていた田中（2）は緊張と集中しにくい環境が重なり、思うように記録が伸びなかった。

文責 内賀嶋陽史（2）

男子走幅跳

山中 敬雄（3） 7m18（+2.9m）☆（第2位）7点

この日の2本目の跳躍で追い風参考ながら自己初の7m台を記録した。さらに、2位入賞も果たし満足のいく結果となったようだ。ただ、踏み切るときに踵から入る癖が直っておらず、改善の余地もある試合だった。これからのさらなる活躍の期待が高まる。

文責 野本健太（2）

男子三段跳

山中 敬雄 (3) 14m38 (+2.3m) (第6位) 3点

矢野 達哉 (2) 13m96 (+1.9m) (第8位) 1点

今年は三段跳で点数を稼ぐと意気込んでいた山中 (3) であったが、一本目でまず記録を残すまではよかった。だが、思うようにステップが踏めなく記録は伸びなかった。矢野 (2) は、2本目に記録を残すが、走りを跳躍に生かすことが出来ず、その後も記録を伸ばすには至らず、14mにも届かない結果となった。

文責 保科政幸 (2)

男子砲丸投

西野 駿作 (3) 13m82 (第1位) 8点

大阪インカレで府大記録タイである13m88を記録し、次はチャンピオンシップの標準記録である14m20を目標と掲げていた西野 (3) だったが、13m82という記録で目標には惜しくも届かなかった。しかし、2位と1m以上の差をつけての貫録の1位でポイントを稼いでくるところはさすがである。今後の活躍に期待したい。

文責 奥野照基 (2)

十種競技

二反田 松平 (M2) 5178点 (第7位) 2点

100m : 11" 72 (707)

スタートの出だしも良く、終始安定した走りだった。

走幅跳 : 6m19 (628)

天候は晴れで条件はよく、3回の試技のすべてにおいて6m台を跳ぶことができたが、あまり納得のいく記録ではなかったようだった。

砲丸投 : 9m57 (460)

1投目2投目と順調に記録を伸ばしてきたが、3投目は記録が伸びなかった。それでも5位を獲る好記録であった。

走高跳：1 m 6 5 （5 0 4）

1 5 0から跳び始め、1 5 0, 1 5 5と堅実な跳躍を見せた。1 6 0は3回目でクリアした。この3回目に見せた試技が、腕の振り上げとリードレッグの引き上げのタイミングの合ったその日最高の跳躍だった。そして、続く1 6 5もクリアした。

4 0 0 m：5 4" 8 1 （6 0 6）

最近の就職活動のせいで練習不足であったせいもあり、自信のベスト記録より1秒ほど遅い結果となった。本人はまったく満足していない様子であった。

1 1 0 m H：1 8" 0 4 （5 2 0）

風が強く、8台目でバランスを崩してしまいタイムはあまり出なかった。

円盤投：3 0 m 2 0 （4 2 0）

3 0 m台を投げることができ、本人も手ごたえのある一投だった。

棒高跳：3 m 0 0 （3 5 9）

就活もあり練習不足だったものの、本人も予想以上の記録が出たようだった。

やり投：3 8 m 7 8 （4 2 4）

強風が吹き荒れる中、順調に記録を伸ばしていったが、自己ベストに届かない悔やまれる結果となった。

1 5 0 0 m：5' 0 9" 8 4 （5 0 4）

序盤、先頭集団についていていたものの、疲労と最終レースであったためかペースが落ち、1 1位でのゴールとなった。しかし、この最終レースでは強靱な粘り強さを見せつけられた試合となった。

女子 1 0 0 m

草西 佑美（2）予 1 5" 3 0 ☆（±0. 0 m）（8着）

大会前に重点的に練習したスタートだったが、今回は少しくまらなかつた。中盤は他の選手と離されてしまったが、力むことなく自分の走りができた。終盤はやや失速してしまい、粘りが必要と感じたようだ。自己ベストであり、改善点も見つかる良いレースとなった。

文責 高原裕樹（2）

女子200m

石井 あかり (2) 予 31" 56 (−3.0m) (6着)

向かい風が強い中のスタートとなった。粘りのある走りを見せたもののベスト更新にはならなかった。課題としているスタートを改善している最中であり、今後更なる活躍が期待される。

文責 草西佑美 (2)

女子800m

関岡 由希子 (3) 予 2' 27" 27☆ (5着)

関岡 (3) は1周目、集団の最後尾に着いていく。2周目のラスト300m辺りから徐々にペースアップしつつ、ラスト200mでスパートをかける。最後は少し失速したものの、自己ベストを更新する素晴らしい走りであった。また自身の目標としていた学年別の標準を切る事が出来た。

文責 佐原敏基 (2)

女子1500m

前田 梨奈 (2) 予 5' 11" 74 (13着)

前田 (2) は、序盤は抑え気味のペースであったものの、後半スピードが上がり順位を一つあげてのゴールとなった。本人いわく、今回のレースの走りの内容は良く、最後まで集中力を持続することができた試合であったようだ。今回の経験は、次の駅伝に存分に生かされることだろう。

文責 石井あかり (2)

女子5000m

西村 実希子 (3) 18' 37" 64☆ (33位)

スタート直後から4つの集団に分かれ、最後の集団に位置していた。初めは大阪大の選手にぴったりとついていたが、2000mから自ら引っ張り、1周88～89の非常にリズムのよい走りをみせた。残り1000あたりで、少し崩れ90～92かかったが、最後まで粘り切り、1年半ぶりの大幅自己新記録を樹立。納得のいく走りができたようであった。

文責 前田梨奈 (2)

対校得点結果

男子2部総合得点 大阪府立大 46.5点 第5位

男子2部トラック得点 大阪府立大 15点 第10位

男子2部フィールド得点 大阪府立大 29.5点 第4位

《応援に来ていただいたOB・OGの方々》

加藤さん、山口さん、田村さん、笠井さん、志議さん、仲田さん、福西さん、木下さん、道家さん、雲財さん、岡本さん、黒川さん、西濱さん、二反田さん、松本さん、逢坂さん、大林さん、木村さん、新田さん、野々口さん、林さん、藤井さん、藤原さん、山本（裕）さん、山本（僚）さん

お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

3. その他の試合の結果

平成22年度学連ロード長距離記録会

ハーフマラソン 逢坂良樹 (4) 1時間16分23秒
藤原英司 (4) 1時間15分19秒 ☆
山下翔平 (2) 1時間15分25秒 ☆

第3回学連記録会

100m <男子>谷口裕幸 (4) 11" 27 (+0.5m)
伊吹惇 (3) 12" 10 (-1.8m)
中田洸樹 (3) 11" 94 (-1.3m)
内賀嶋陽史 (1) 11" 40 (-1.3m)
大仲健司 (1) 12" 13 (-0.8m) ☆
奥野照基 (1) 12" 23 (-0.8m)
高原裕樹 (1) 12" 36 (-2.1m)
保科政幸 (1) 11" 81 (-1.3m)
矢野達哉 (1) 12" 12 (-0.8m)
<女子>草西佑美 (1) 15" 76 (+0.0m) ☆

200m <男子>谷口裕幸 (4) 22" 80 (+0.5m)
中田洸樹 (3) 23" 51 (+0.0m)
伊吹惇 (3) 23" 70 (+2.5m)
中野智典 (2) 22" 74 (+0.0m)
小川潤 (1) 24" 15 (+2.1m)
<女子>石井あかり (1) 31" 10 (+2.6m)

400m 武田大輝 (3) 51" 95 ☆
中野智典 (2) 50" 19

800m <男子>木村和史 (4) 2' 02" 37
野々口諒一 (4) 2' 04" 09
武田大輝 (3) 1' 59" 73
甲木孝弘 (2) 1' 59" 17 ☆
佐原敏基 (1) 2' 08" 77 ☆
<女子>関岡由希子 (2) 2' 30" 95

1500m<男子>	木村和史 (4)	4' 21" 99
	野々口諒一 (4)	4' 15" 21
	山本裕章 (4)	4' 52" 91
	赤坂柁典 (2)	4' 29" 13
	甲木孝弘 (2)	4' 06" 10
	佐原敏基 (1)	4' 28" 66 ☆
<女子>	関岡由希子 (2)	5' 11" 79
5000m<男子>	逢坂良樹 (4)	16' 53" 26
	藤原英司 (4)	16' 30" 40
	林伸明 (4)	17' 27" 40
<女子>	小池徳子 (2)	DNS
	西村実希子 (2)	19' 15" 19
	前田梨奈 (1)	19' 46" 91
110mH	内賀嶋陽史 (1)	15" 14 (-0.3m)
400mH	小川潤 (1)	DSQ
3000mSC	北川拓哉 (3)	10' 03" 05
	山下翔平 (2)	10' 23" 67 ☆
走幅跳	谷口裕幸 (4)	NM
	山中敬雄 (2)	6m82 (+1.0m)
	野本健太 (1)	6m26 (-0.5m)
走高跳	渡部翔太 (2)	1m90
	田中英和 (1)	1m95
砲丸投	西野駿作 (2)	13m39

4. 今後の目標と反省

短距離パート

短距離パートは春先から自己ベストを更新した選手も多く出ており、各選手が意識をもって冬期練習に臨んだ成果が出ているのではないかと思います。特に関西インカレでは2年連続のリレー両種目決勝進出を果たすなど、個々の実力も着実に着いてきていると実感できました。しかし一方でケガが多い現状は改善すべき点かと考えています。2回生の内賀嶋を筆頭に若い選手が実力を発揮しており、新入生も期待できるメンバーが多く入ってきていますので、部内全体で高い競争意識をもって練習・試合に取り組むことができれば、さらなる飛躍が期待できると思います。そのために今後も努力していきますので、これからもどうぞ応援よろしくをお願いします。

文責 短距離パート長 中野智典（3）

中距離パート

昨年の冬から関西 I C の標準記録を突破し、関西 I C に一人でも多くの選手が出場することを目標に練習に励んできましたが、誰一人として標準記録を突破することができませんでした。しかし、関西 I C では、準決勝に進出するなど昨年よりも良い成績を収めることができました。大阪三大学対校戦では、他大学よりも多くのポイントを獲得し、府大の勝利の貢献することが出来ました。これからは既存のメンバーに加え、新入生の中野も加わり、びわ湖駅伝予選会も見据えつつ、7月の首都大戦勝利を目標により一層練習に励んでいきたいと思っています。温かいご声援よろしくをお願いします。

文責 中距離パート長 赤坂柁典（3）

長距離パート

トラックシーズンが始まり、大阪インカレ・三大戦・関西インカレの3つの大きな試合がありました。長距離パートでは関西インカレを最大の目標に練習しました。大阪インカレはベストを出した選手は少なく、特に5000mと10000mに出場した選手は全員途中で失速し、バテるという結果になってしまいました。三大戦ではこの時の反省を生かし、5000mで持ちタイム的に非常に不利な中、北川（4）と甲木（3）で3位と4位になり、阪大・市大・府大の3大学とも7点の同点に持ち込むことができました。15000mは9点を取り勝ち越したため、中長種目での勝ち越しに成功しました。しかし、目標としてきた関西インカレでは入賞の可能性が高かった甲木（3）の15000mは予選落ち、北川（4）の3000mSCでは11位となり、無得点に終わりました。5000m、10000m、ハーフマラソンでも全員ベストと程遠い結果に終わり、長距離パートでありながら長い距離に対応することができませんでした。唯一の明るい材料は山下（3）が3000mSCでベストを更新し、去年から徐々にタイムを伸ばしていることです。

長距離パートは2～4回生が3人と非常に少なくびわ湖駅伝予選会出場も危ぶまれていましたが、1回生が2人（5/31現在）入部を決めており、中距離と院生の方々を合わせると何とか出場できそうです。これからは首都大戦もありますが、主に予選会を目標に練習していくこととなります。年々レベルが上がってきており、厳しい戦いになると思いますが、応援よろしくをお願いします。

文責 長距離パート長 甲木孝弘（3）

フィールドパート

シーズン初の対校戦である大阪インカレでは、西野駿作（3）が府大タイ記録をだし、ほかの選手も自己ベストに迫る記録をだすことができ、好発進することができました。しかし、三大戦では、総合優勝をすることができましたが、フィールドだけでみると1位をとることができず、トラックに助けられるかたちとなってしまいました。関西インカレでは、昨年フィールドの部4位ということもあり、今年は優勝を目指していました。出場した選手全員が入賞をし、昨年よりも点数を上げることはできました。しかし、順位は4位と昨年とかわりませんでした。敗因は、関西インカレに出場することのできた選手の少なさにあると考えています。フィールドパートの底上げをはかるため、この結果をみて、「強豪校にはやはり勝てない」と思うのではなく、「来年こそは勝つ」と意気込み、これからの練習に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

文責 フィールドパート長 山中敬雄（3）